

The background of the slide is the flag of the People's Republic of China, featuring a red field with five golden-yellow stars. One large star is positioned on the left, and four smaller stars are arranged in an arc to its right.

毛沢東時代の政治プロセス

画像出典

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%AD%E8%8F%AF%E4%BA%BA%E6%B0%91%E5%85%B1%E5%92%8C%E5%9B%BD%E3%81%AE%E5%9B%BD%E6%97%97#/media/File:Flag_of_the_People%27s_Republic_of_China.svg

人物紹介



毛沢東

中華人民共和国の政治家、軍事戦略家、思想家。

1893年11月19日湖南省湘潭県韶山村で生まれる。

中国共産党の創立党員の1人で、長征、日中戦争を経て党内の指導権を獲得し、1945年より中国共産党中央委員会主席および中央軍事委員会主席を務めた。

日中戦争後の国共内戦では蒋介石率いる中華民国を台湾に追放し、中国大陸に中華人民共和国を建国した。以後、死去するまで同国の最高指導者の地位にあった。



劉少奇

中華人民共和国の政治家。凱豊や胡服などといった別名も使用した。1898年に湖南省の寧郷県生まれである。

1920年に湖南省の中国社会主義青年団（後の中国共産主義青年団）に入団。1921年にソビエト連邦に入国し、モスクワの東方勤労者共産大学で学ぶ。同年、中国共産党に入党。1927年には党中央委員会に選出された。その後、第二代国家主席まで上り詰めたが、文化大革命で失脚。非業の死を遂げた

社会主義の選択

1949年9月、人民政治協商会議が開かれた、共同綱領、中央政府組織法が採択、毛沢東を主席とする人民共和国の成立を決めた。

この時点では社会主義をすぐに実現しようとしたのではなく、労働者・農民・プチブルジョアジー・民族ブルジョアジーの四つの階級の連合独裁、新民主主義の国民経済、農民的土地所有、国営・合作社・公私合営・私的経済を認めるなど、あくまでも「新民主主義」であった。

社会主義の選択

しかし、毛沢東はかなり早くから社会主義への移行を模索していたようだ。1951年に7月に農業集団化を進めようとする山西省党委員会を劉少奇が激しく非難したとき、毛沢東は山西省党委員会を支持すると劉少奇に不満をぶつけ、党東北局の高崗を支持して農業集団化を進めようとした。

その後1953年6月の政治局会議で劉少奇らの「新民主主義を固める」や「私有財産を保護する」の考えを一蹴した。重大な決定はほとんど毛沢東の独断専行で行われ、十分な議論はされなかった。毛沢東個人の、しかももっぱら政治的判断で中国は社会主義に突入していった。

社会主義移行の功罪

第一次五カ年計画で社会主義工業化が進んだ。そして1955年からは農業の集団化、工商業の社会主義改造（公有化）が行われ、これらの改造は3年で終わった。しかし、その後三十年間は低い経済レベルに喘いだ。そして、現在に至るも市場化によって1950年代以前にすべてが戻っている。

社会主義の国家機構

1954年9月に第一回全国人民代表会議が行われた。それに先駆け、1953年3月公布の新選挙法に基づき、地方の人民代表大会代表と全国人民代表大会の代表を選ぶために一年がかりで中国初めての普通選挙が行われた。そして1226名の全国代表が選ばれた。ちなみにこの際の投票率は86%であった。

憲法は1954年4月に党中央の憲法起草委員会の下で草案が作られ、全国人民代表大会で採択された。前文、四章一〇六条からなり、がっしりとした社会主義憲法であった。

全国人民代表大会



唯一最高の国家権力機関。一院制で任期は四年で年一回開催される。憲法の改正、法律の制定、国家主席の選出、国務院人事の決定、国民経済計画の決定、戦争と平和の問題の決定などの役割がある。よく、全人代と略される。

国家主席



国家元首。国務院総理の指名権、軍隊の統帥権を持ち、国防委員会主席を兼ねる。固有の職権に戒厳令・動員令・戦争状態の宣言がある。一時期空席となり、75年憲法、77年憲法では主席制は廃止され、82年になり復活した。現在の主席は4代目で習近平である。

画像出典：

https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%BF%92%E8%BF%91%E5%B9%B3#/media/File:Xi_Jinping_2016.jpg 4月24日

国務院

最高の行政機関であり、全人代の執行機関である。全人代とその常務委員会から監督と指導を受ける。

最高国務会議

国家主席の諮問機関である。75年憲法から廃止された。

国防委員会

軍の統一戦線組織。75年憲法以降廃止。

中央司法機関



最高人民法院



最高人民検察院

からなる。

第1章 毛沢東時代の政治プロセス

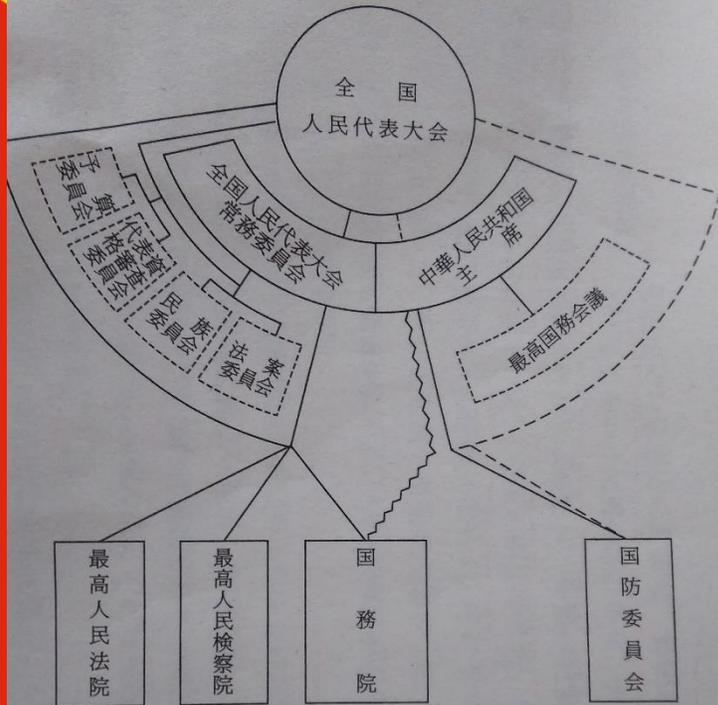


図 1-1 中華人民共和国の最高国家機関 (1954年)

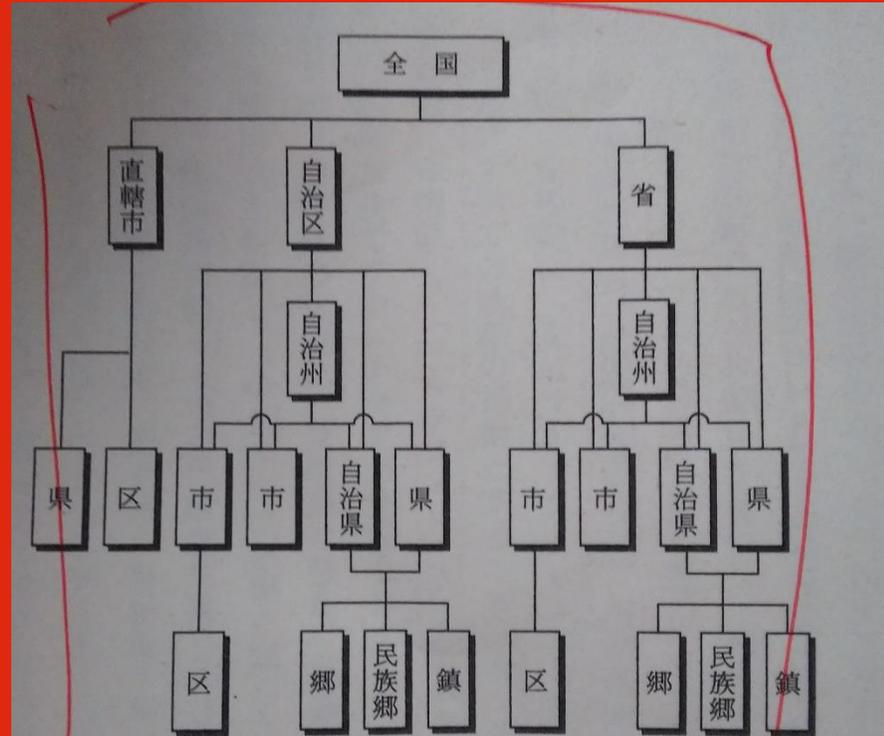


図 1-2 中華人民共和国行政区域系統図 (1954年)

注) 本図は 1954年9月20日に採択された中華人民共和国憲法第53条による。

第八回党大会の決定

1. 階級闘争や革命から経済建設に重点をシフト
2. 政治体制での党の指導性、党の代行主義の確定
3. 個人崇拜の除去、組織の整備など

反右派闘争



反右派闘争のパレード

<http://www20.discuss.com.hk/viewthread.php?tid=3814390&extra=page%3D1>

1957年6月8日の人民日報社説「これはどうした
ことか」から突如発生した。政治的雰囲気は暗転し、その年の秋から党の独裁と一元的支配が強まった。ここから大躍進運動、文化大革命へつながる。

大躍進運動



福建省南靖県書洋鎮五更寮村にある製鋼炉の遺跡
https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E8%BA%8D%E9%80%B2%E6%94%BF%E7%AD%96#/media/File:Nanjing_Wugengliao_Tugaoluqun_2013.10.04_11-27-54.jpg

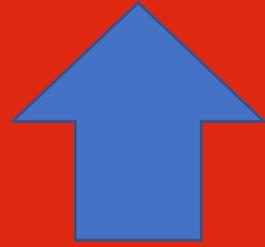
1958年5月に公式に始まった。一億人の労働者・農民を動員した鉄鋼大生産運動、人民公社の設置を行った。穀物生産と鉄鋼生産が前年比の約2倍という目標が建てられたが結果的には飢餓（密植運動による不作）が発生し1965年までに少なくとも1500～2000万人が犠牲となった。

文化大革命

公式党史では「反革命集団に利用されて、党と国家と各民族人民に大きな災難をもたらした**内乱**」であるとした。二代目国家主席の劉少奇や党総書記であった鄧小平などのトップリーダーが次々と失脚に追い込まれた。党機構や国家機構もほぼ徹底的に破壊され、1956年選出の党中央委員会の半数、国務院閣僚の三分の一が失脚した。死者は少なく見積もっても40万人に及んだ。

原因

当時の飢饉や経済破綻を乗り切るために劉少奇や鄧小平の指導下で現実的な調整政策



毛沢東は不満に思っていた

過程

1966年5月「文化大革命の司令部」を設立

1966年末まで：紅衛兵運動

1967年2月：解放軍による事態の掌握

1967年秋：劉少奇の除名、文化大革命のとりあえずの収束

結果



少なくとも見積もって40万人の死者
被害者は少なくとも1億人
劉少奇や鄧小平などのトップ
リーダーの失脚、党中央委員会の
約半数の失脚、国務院閣僚の
三分の一が失脚

<http://e-wiki.org/ja/images/%E7%9A%AE%E5%89%A5%E3%81%8E%E3%81%AE%E5%88%91#images-4>

